

ガーナ人、横田からの支援に尽力 *Ghana native helps Yokota give to those in need*

February 24, 2023

By Airman 1st Class Natalie Doan
374th Airlift Wing Public Affairs

リサイクルできる服や日用品を、基地内にある「エアマンズ・アティック」に持ち込んで寄付する際、ほとんどの人はそれがどこに行くかなど考えたりはしないだろう——。しかし、実は地球の裏側にいる最も必要としている人の手に渡っているかもしれないのだ。

横田基地の「エアマンズ・アティック」は、ボランティアによって運営されている非営利団体で、軍人、民間人の契約業者、その家族を対象にリサイクルの服や日用品を無償で提供する活動を行っている。

横田基地で集められた衣類や日用品の寄付は、埼玉県入間市の自動車輸出会社「信頼商事」のオーナーであるジェームズ・アサンテ氏の支援によって、基地から遠く離れた場所へも届けられるようになった。

アサンテ氏は、横田基地の医療施設で働いていた兄の紹介で10年前に「エアマンズ・アティック」とともに活動を始めた。以来、「エアマンズ・アティック」から過剰在庫を回収し、有効利用できる先を探す活動を行っている。

第730航空機動中隊プログラムマネージャーで「エアマンズ・アティック」の管理官であるライアン・オーバート曹長は、「アサンテ氏の協力によって、過剰在庫が必要な場所でも有効利用されるので、戸惑いなく手離せる」と話す。

ガーナ出身のアサンテ氏は、2010年に母国へ帰国した。孤児院がある教会を訪れ、一本のズボンを兄と共有していた時代と今のガーナの生活があまり変わっていないことを知った。

「母国アフリカの生活はとても厳しい」とアサンテ氏はこぼす。「子どもは教会に捨て去られ、帰る家もない」。アサンテ氏が教会の関係者に話を聞いたところ、寄付なども全く寄せられず、子どもたちが服、靴、毛布などを必要としていることを知った。

アサンテ氏は、自身の子どもの頃のことを考えると、目の前の子どもたちを助けたいという衝動に駆られた。日本に戻った後、入間市役所に連絡を取り、同市のセンターに寄付の過剰在庫があればトラックで引き取らせてもらえないか相談した。すると間もなく、横田基地の「エアマンズ・アティック」のボランティアとの繋がりができた。

今では、アサンテ氏とその社員は、昭島市、入間市、立川市、横田基地など、関東各地から寄付を集めている。それらを一旦、入間市にある倉庫に運び、オーストラリア、タンザニア、ガーナなどへ車を輸出する際のコンテナの余剰スペースに積めるように仕分けし、圧縮する。

アサンテ氏のもとには寄付の物資に対する感謝のメッセージが届き、努力が報われていることへの感慨もひとしおだ。アサンテ氏は「メッセージをもらって、涙が出ることもある」と話す。

オーバート曹長は、アサンテ氏との連携によって「エアマンズ・アティック」が世界の人々を支援できる意義深さに触れ、「横田基地の中だけでなく、世界に支援を広げられることに大きな希望を感じる。とても大事なことだと思っている」とコメントした。

